

## 寄り添う無料の電話相談「認知症110番」の継続にご支援を

私たち公益財団法人「認知症予防財団」の無料の電話相談「認知症110番」が資金不足に陥り、存続の危機を迎えています。そこで財団では11月1日から来年1月14日までの75日間、インターネットを通じた募金「クラウドファンディング」に挑戦しています。第一段階の目標金額は750万円です。どうか温かいご支援をよろしくお願いいたします。

介護や認知症に関する悩みを抱えていても、相談機関へ出向くことが難しい人、対面では話しにくい人、匿名性を求める人……「認知症110番」はこうした方々の支えとなってきました。ただ、長引く景気低迷によって資金繰りが悪化し、このままではあと数年で「認知症110番」を閉鎖しなくてはならない状況に追い込まれています。

今後、認知症の人は急増すると見込まれています。そんな大切な時期に電話相談を続けられなくなることは無念でなりません。ご賛同いただける方は財団ホームページか次のURL、QRコードにアクセスし、寄付や情報拡散へのご協力を心よりお願いいたします。

<https://readyfor.jp/projects/ninchishou110>

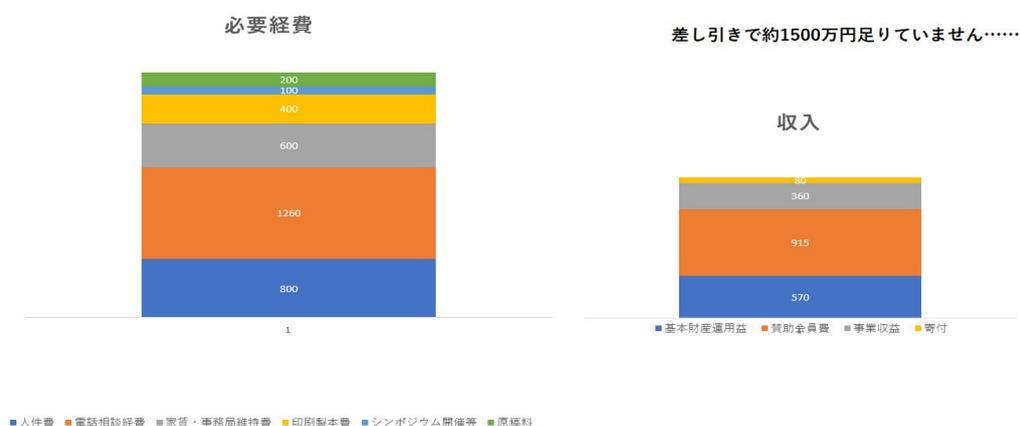


または「認知症予防財団 レディーフォー」で検索

なお、ネット経由ではなく郵便振替で「財団法人認知症予防財団」（口座番号00120・0・551670）宛てに直接任意の金額をお振り込みいただくことも可能です。

認知症予防財団は公益財団法人ですので、ご寄付をいただくと所得税、法人税等の控除の対象となります。

■認知症予防財団の平均的な年間収支（単位・万円）



## ●ご寄付のお願い

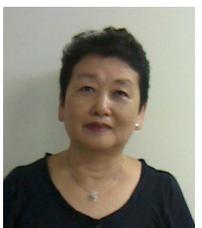


**認知症予防財団会長 新井平伊（順天堂大名誉教授、アルツクリニック東京院長）**

無料の電話相談「認知症110番」が近年の長引く低成長によって運営資金の調達が困難になり、存続が危うくなっています。このままでは電話相談事業は近いうちに休止せざるを得ない状況に追い込まれています。

米国で認知症の新薬が仮承認され、治療への期待が高まっています。しかし、今後いかに優れた薬剤が開発されたとしてもアルツハイマー病を完全に予防したり、根絶したりすることはできないでしょう。認知症の相談窓口は今後とも必要不可欠です。ぜひとも皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

## ■電話相談を続けている仲間として



**公益社団法人 認知症の人と家族の会 大野教子 東京都支部代表**

認知症予防財団の事業のひとつに電話相談「認知症110番」があります。「認知症110番」の特徴は、相談員が医療や介護の専門職であることと、順天堂大学医学部精神医学講座の医師に電話で相談できることで、この30年間、全国の介護家族を力づけてきました。

振り返りますと、私ども家族の会本部の代表（当時）は1990年の認知症予防財団創設時に財団評議員となっておりました。また92年から9年間、東京都支部の世話人4人が月1回、認知症110番の相談員として参加し、私も最後の1年間、携わっておりました。

介護家族にとって「一歩前に踏み出す勇気を得られる相談先」の存在は大きく、同じように電話相談を続けている仲間として、「認知症110番」の存続を切に願っております。

認知症予防財団は1992年より月曜と木曜の10～15時にフリーダイヤルの「認知症110番」(0120-65-4874)を開設し、約30年に渡って延べ約3万人の方のお悩みに向き合ってきました。最も心がけているのは「相談者に寄り添う」ことです。順天堂大学と提携し、同大医学部精神医学講座の医師に相談できる体制も整えています。相談をして心が軽くなった方、介護をやり遂げた方などから多くの感謝の声をいただいています。